

支所だより

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

往時の栄華を今に伝える「繁栄橋」

～ 静かにたたずむ土木遺構～

江戸時代から昭和にかけ交通の要衝として栄えた壬生川港の象徴「繁栄橋」。その欄干と常夜灯が、国道196号沿い、おかげん祭の花火で有名な鷺森神社の境内と近隣地に離ればなれとなり今も残されているのをご存じでしょうか。

松山藩初代藩主・松平定行は、藩の東の玄関口にふさわしい港町を建設しようと、壬生川港堀川の築港と大新田の干潟干拓を計画、約20年もの歳月をかけて明暦2（1656）年に竣工させました。そしてこの地に多くの繁栄がもたらされることを願い、堀川に注ぐ中川の河口に架けた橋に「繁栄橋」と名付けたのです。この繁栄橋を起点にして、南は小松藩を経て西条藩に、北は今治藩に至る南北道や、松山城下町札之辻（現在の本町）に通じる中山道の二本の街道

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

など、壬生川港と各地を結ぶ道路網も整備されました。

かつては毎夜灯されていた橋のたもとの常夜灯も、明治40年頃の石橋への架け替えと合わせその役目を終え、そしてついに、平成11年の国道196号の道路拡張工事により、繁栄橋は取り壊されることになりました。しかしながら関係者の強い熱意が裏り、欄干部分は鷺森神社近くの歩道内に、常夜灯は境内にそれぞれ移設復元され、当時の風情を今に伝えていきます。（参考文献：壬生川郷土誌）

国道196号の歩道に
移設復元された
繁栄橋の欄干部分



鷺森神社

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

自分たちの地域は自分たちで守る

～ 来見自主防災会～

来見自主防災会は、来見自治会が母体となって平成18年12月に設立された自主防災組織で、結成後、毎年実施している防災訓練は今年で5回目を数えています。その主な活動は、地域住民への防災知識の普及、地域の災害危険箇所や内容の把握、防災資機材等の点検や整備などです。



子どもたちから高齢者までみんなが参加し、地域ぐるみで取り組んだ防災訓練



講演いただいた廣田先生

去る3月に開催された今年の防災訓練には、約150人もの住民が参加しました。まず、地元消防団が火災発生時の消火栓の取り扱い方を披露し、その後、来見集会所で丹原西中学校の廣田和夫教頭による、校区内を東西に走っている世界的にも有名な断層「中央構造線」に関する地質学からのお話をいただきました。折りしも東日本大震災の発生直後であったことから、参加者の皆さんは現実的な話として熱心に受講していました。

講演の後は、消防団による放水訓練の見学や、食糧班の炊き出し訓練を行って解散となりました。

いつ発生するか分からない災害に備え、「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い連帯感で、地域住民が自主的に協力し合う自主防災組織。

皆さんも地域防災力の向上のために参加しましょう！

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

名筆家と名高い小松藩主の書

～ 市内に残る奉納扁額～

一柳直卿は小松藩の第三代藩主です。父の直治は60年以上の長きにわたり、二代藩主として初期の小松藩の整備を手掛けました。このため、直卿が藩主に就いたのは40歳の時でしたが、それまでの期間に広範な学問や修行を積み高い教養と人格を具え、江戸時代中期に頻発した飢饉（ききん）・災害・幕府公役などの困難を乗り越えました。

直卿は書を好み、漢詩・和歌から仏教経文をはじめ、通常は藩主が書くことのない幕府提出の重要文書や家臣へのお達し状、果ては菩提寺である仏心寺に禁令の立て札まで書き与えました。その書は古今の様式や書体を極め、気品と教養にあふれ生真面目ながら気骨ある人柄が感じられるもので、当時三百諸侯のうち随一の名筆家と言われ、将軍

の子に手本を書いて献上したと伝えられています。また信仰心にも厚く、千面を目標に扁額（建物の内外や山門・鳥居などの高い位置に掲げられる額）を謹書し寺社に奉納しました。それらのうち50面以上が東予地方に現存し、小松地区の書跡1件・扁額等14件と、東予地区の2社10カ寺の扁額が、それぞれ西条市文化財の指定を受けており、そのほかに西条や丹原の寺社でも存在が確認されています。

詳しくは小松温芳図書館（TEL0898-72-5634）でご案内します。寺社を訪ね、その書を鑑賞してはいかがでしょうか。



▲小松地区 仏心寺「円覚山」扁額



▲東予地区 長福寺「長福寺」扁額